

10年間の財務データ

(単位：百万円)

IFRS	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020
年度：					
売上高	1,091,195	1,114,784	1,114,308	1,100,039	1,071,453
売上原価	△704,177	△720,118	△719,299	△696,166	△665,234
売上総利益	387,018	394,666	395,008	403,873	406,219
販売費・研究開発費および一般管理費	△292,701	△302,959	△301,253	△302,191	△294,399
事業利益*1	96,852	95,672	93,237	99,236	113,136
営業利益	83,617	78,706	53,642	48,773	101,121
税引前当期利益	86,684	80,819	54,698	48,795	98,320
親会社の所有者に帰属する当期利益	53,065	60,124	29,698	18,837	59,416
設備投資	89,677	79,417	79,632	83,666	91,834
減価償却費および償却費	46,273	51,783	52,485	61,460	63,045
年度末：					
資産合計	1,350,105	1,426,230	1,393,869	1,353,616	1,431,289
親会社の所有者に帰属する持分	616,315	640,833	610,543	538,975	620,257
有利子負債(Net)	149,980	156,337	183,297	272,031	225,213
1株当たり(円)：					
当期利益	46.41	52.88	26.81	17.19	54.18
親会社所有者帰属持分	541.45	564.22	556.97	491.60	565.41
年間配当金	15.0	16.0	16.0	16.0	21.0
流動性の指標：					
ネットD／Eレシオ*2	0.31	0.32	0.36	0.57	0.44
インタレストカバレッジレシオ(倍)	44.0	43.3	38.1	32.6	49.2
投資の指標：					
株価収益率(倍)	23.7	18.0	33.0	58.5	20.9
株価親会社所有者帰属持分倍率(倍)	2.0	1.7	1.6	2.0	2.0
収益性の指標：					
総資産事業利益率(ROA)(%) *3	7.4	6.9	6.6	7.2	8.1
親会社所有者帰属持分 当期利益率(ROE)(%) *4	8.7	9.6	4.7	3.3	10.3
投下資本利益率(ROIC)(%)	—	—	3.8	3.0	6.9
EBITDAマージン(%)	—	—	—	—	—
効率性の指標：					
総資本回転率(回) *5	0.83	0.80	0.80	0.80	0.77

*1 IFRS導入時に、経営管理のため独自に定義した利益指標

(売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益)

*2 ネットD／Eレシオ＝有利子負債÷親会社所有者帰属持分(有利子負債は「有利子負債－現金及び現金同等物×75%」で計算)

*3 総資産事業利益率(ROA)＝事業利益÷期中平均資産合計

*4 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)＝親会社の所有者に帰属する当期利益÷期中平均親会社所有者帰属持分

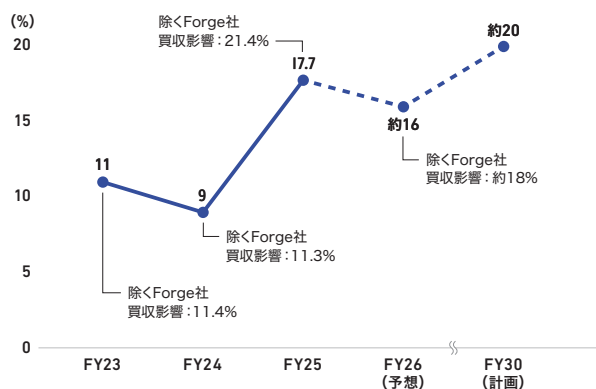
*5 総資本回転率(回)＝売上高÷期中平均資産合計

(単位：百万円)

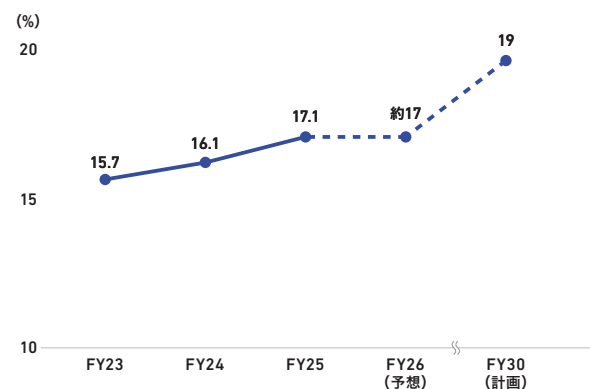
IFRS	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
年度：					
売上高	1,149,370	1,359,115	1,439,231	1,530,556	1,583,719
売上原価	△723,472	△888,727	△927,783	△979,792	△986,570
売上総利益	425,897	470,387	511,448	550,764	597,148
販売費・研究開発費および一般管理費	△305,966	△339,372	△368,496	△397,775	△424,097
事業利益	120,915	135,341	147,681	159,302	181,163
営業利益	124,572	148,928	146,682	113,968	199,412
税引前当期利益	122,472	140,033	142,043	108,330	196,115
親会社の所有者に帰属する当期利益	75,725	94,065	87,121	70,272	134,675
設備投資	74,102	69,850	76,947	96,439	103,216
減価償却費および償却費	66,234	71,820	78,298	86,461	88,914
年度末：					
資産合計	1,457,060	1,511,734	1,768,371	1,721,131	1,812,346
親会社の所有者に帰属する持分	686,909	768,676	815,074	746,804	770,819
有利子負債(Net)	212,508	203,722	320,141	331,286	375,979
1株当たり(円)：					
当期利益	69.71	87.99	83.72	69.77	138.36
親会社所有者帰属持分	640.25	726.12	795.09	751.01	804.24
年間配当金	26.0	34.0	37.0	40.0	48.0
流動性の指標：					
ネットD/Eレシオ	0.36	0.31	0.45	0.50	0.52
インタレストカバレッジレシオ(倍)	45.0	31.4	34.8	29.5	32.7
投資の指標：					
株価収益率(倍)	24.9	26.2	33.8	42.4	31.8
株価親会社所有者帰属持分倍率(倍)	2.7	3.2	3.6	3.9	5.5
収益性の指標：					
総資産事業利益率(ROA)(%)	8.4	9.1	9.0	9.1	10.3
親会社所有者帰属持分 当期利益率(ROE)(%)	11.6	12.9	11.0	9.0	17.7
投下資本利益率(ROIC)(%)	7.9	9.9	8.7	6.7	11.8
EBITDAマージン(%)	-	15.2	15.7	16.1	17.1
効率性の指標：					
総資本回転率(回)	0.80	0.92	0.88	0.88	0.90

パフォーマンスデータ

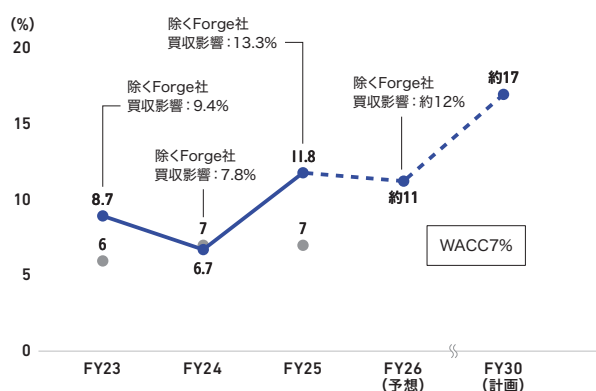
[ROE]



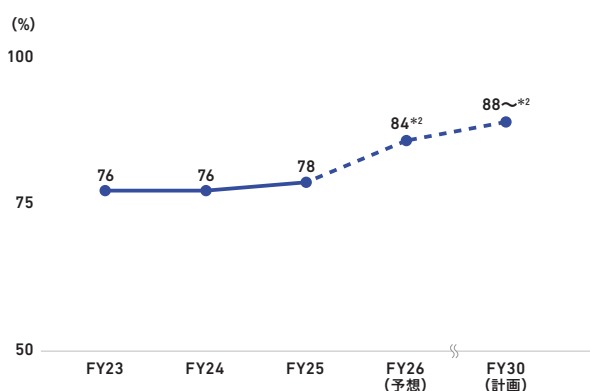
[EBITDAマージン]



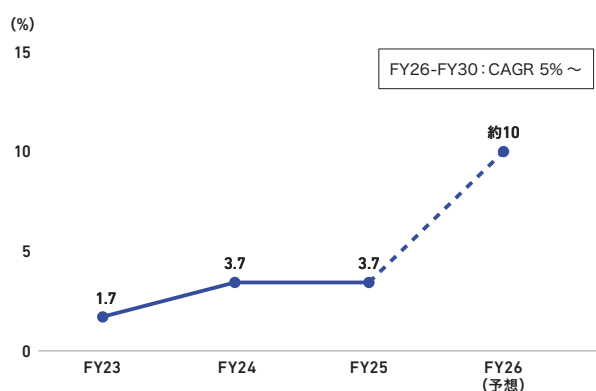
[ROIC (>資本コスト)]



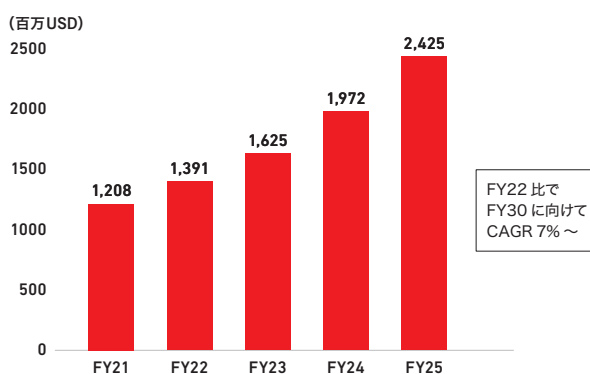
[従業員エンゲージメントスコア*1]



[オーガニック成長率]



[コーポレートブランド価値*3]

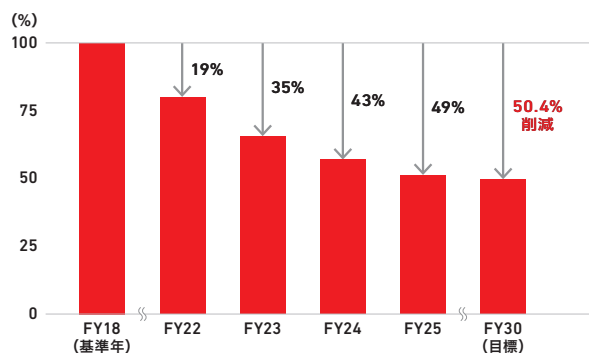


*1 「ASV実現プロセス」の9設問の平均値。

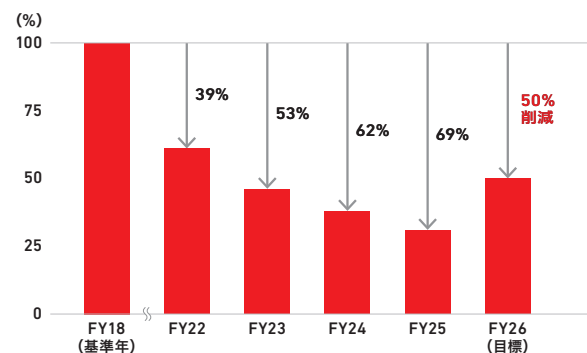
*2 生産性向上の設問を、新設問「意思決定における unnecessary 承認は最小限に抑えられているか」に変更し、FY26の予想およびFY30の目標を修正。

*3 インターブランド社調べ。「Best Japan Brands」公表数値。

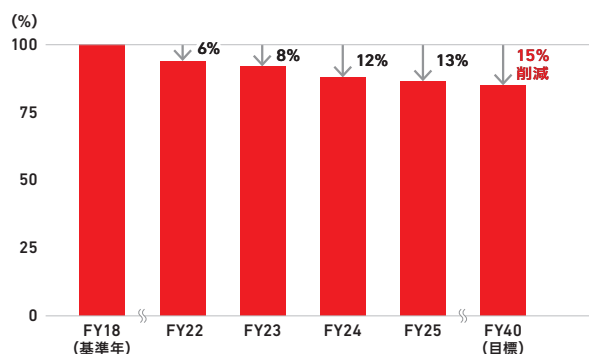
〔温室効果ガス排出量削減率
(対2018年度スコープ1+2総量)*1〕



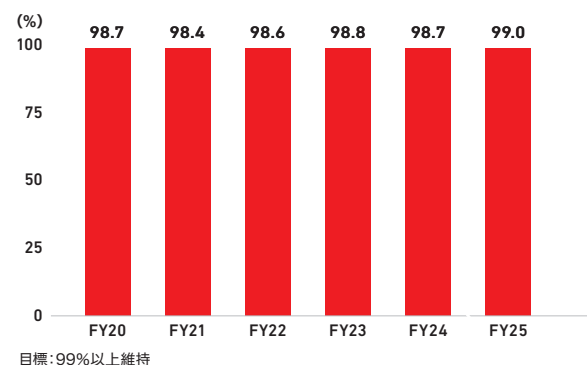
〔フードロス削減率
(発生量対生産量原単位)*3 (対2018年度)〕



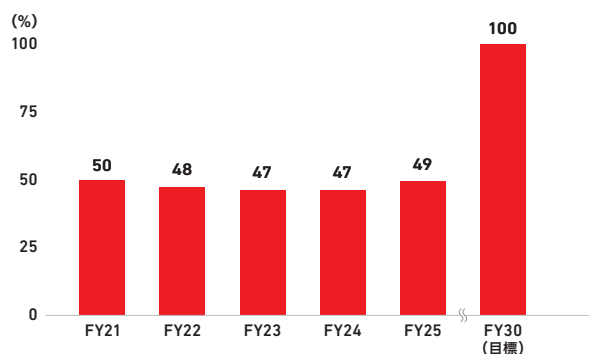
〔水使用量対生産量原単位削減率(対2018年度)〕



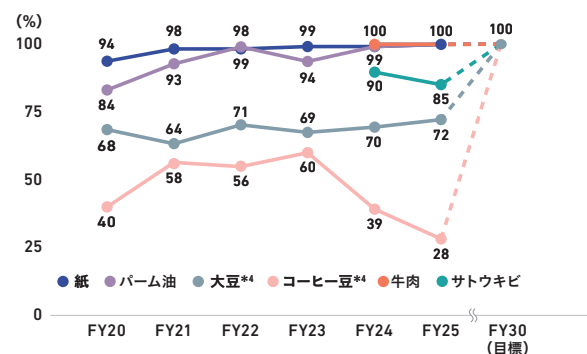
〔廃棄物・副生物の資源化率〕



〔リサイクル可能なプラスチック*2比率〕



〔持続可能な調達比率〕



〔栄養に関する目標・KPI*5〕

	FY25	FY30(目標)
栄養バランスのよい製品の提供	16億食	21億食
減塩した調味料による減塩への貢献	9.3億食	11億食
甘味料による減糖への貢献	5.7億人	7億人
レシピサイトのユニークユーザー数	4100万人	—
社会実装の取り組み数	33	—
アミノ酸の生理機能や栄養機能を活用した製品の利用機会	1.11倍	2.0倍 (FY20比)
従業員への栄養教育	のべ15.5万人	のべ10万人 (FY25目標)

*1 SBTi目標に対する実績

*2 技術的にリサイクル可能なプラスチック。2019年に総量調査を実施、2020年以降は国内主要事業部のみ数値を更新。

*3 原料受け入れからお客様納品まで

*4 国内事業向け調達分

*5 測定方法は、「サステナビリティレポート2026」をご参照ください。

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/sustainability/pdf/2026/SR2026jp_health.pdf#page=4

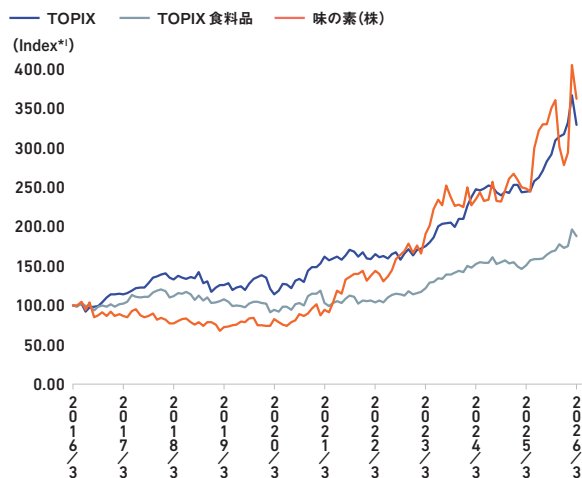
アウトカム	味の素グループが中期的な時間軸で、社会に対して創出する価値。
アグリフードシステム	農業と食品の生産・流通・消費までを含む一連のシステム。
アミノサイエンス®	アミノ酸のはたらきに徹底的にこだわった研究プロセスや実装化プロセスから得られる多様な素材・機能・技術・サービスの総称。また、それらを社会課題の解決やWell-beingの貢献につなげる、味の素グループ独自の科学的アプローチ。
遺伝子治療	疾患の原因となる異常な遺伝子を修復・補完することで、病気を根本から治療する方法。
ウェルビーイング (Well-being)	健康で幸せな状態。
おいしさ設計技術®	味の素グループの強みである香り・味・食感の解析技術および制御技術を磨き、それらの組み合わせにより圧倒的なおいしさを実現し、健康、持続可能性、スマート調理等の+αの顧客価値を創出する技術。
細胞治療	患者自身または他者の細胞を用いて病気を治療する医療技術の総称。
ちゃんと	考え抜かれた決断は意味のある行動につながり、意味のある行動は強力で持続可能な結果につながり、その努力が永続的な効果をもたらすという考え方。
ネガティブインパクト	事業を通じて自社バリューチェーンで発生する負の影響。

ポジティブインパクト	味の素グループが長期的な時間軸で、社会に対して創出するポジティブな影響。
マテリアリティ	味の素グループにとっての重要な事項。
ローリング・フォーキャスト	直近の実績や外部環境、事業計画を元に、継続的に将来の業績見通しを更新していく予測手法のこと。短期目標(業績予想) および中長期目標(ASV指標) の達成に向けアクションプランをスピーディかつ的確に立案し実行するために活用される。
ASV	Ajinomoto Group Creating Shared Value。創業以来一貫した、事業を通じて社会価値と経済価値を共創する取り組み。
CAGR	年平均成長率のこと。Compound Annual Growth Rateの略。
CDMO	医薬品開発製造受託機関のこと。Contract Development and Manufacturing Organizationの略。製薬会社向けに医薬品受託製造、開発段階における製造条件の最適化等、製造・開発面における包括的なサービスを提供する事業。医薬品製造受託機関(CMO=Contract Manufacturing Organizationの略)より、製剤化工程等治験薬の開発も担える点で事業範囲が広い。
SKU	在庫管理上での最小の単位。Stock Keeping Unitの略。例えば、同ブランド・同品種でも、「Cook Do®」回鍋肉、「Cook Do®」回鍋肉2人前で2SKUとなる。
WACC	加重平均資本コストのこと。Weighted Average Cost of Capitalの略。企業の稼ぐ力である投下資本利益率(ROIC) が加重平均資本コスト(WACC) を上回っていくことが、企業価値の成長につながる。

五十音順・アルファベット順

社名	味の素株式会社
創業年月日	1909年5月20日
資本金	79,863百万円
従業員数	連結34,787名、単体3,705名
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで (定時株主総会：6月)
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目7番1号 TEL：(03) 5250-8111(代) https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/aboutus/data/
発行可能株式総数	2,000,000,000株
発行済株式の総数	977,735,616株
株主数	183,995名(前期末比48,962名増)
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード：2802)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

【株価パフォーマンス(10年間)】



*1 2016年3月末日の終値データを100とした配当込みの株価指数の推移。

【トータル株主リターン(TSR)】

	1年	3年		5年		10年	
	累計／年率	累計	年率	累計	年率	累計	年率
味の素(株)	150.2%	196.4%	125.2%	404.5%	132.2%	367.5%	113.9%
TOPIX	134.6%	187.4%	123.3%	202.2%	115.1%	328.2%	112.6%
TOPIX食料品	123.8%	153.6%	115.4%	180.6%	112.5%	187.4%	106.5%

【株式分布状況(所有者別)】

金融機関	36.6%
個人・その他	18.6%
外国法人・外国人	40.4%
事業会社等(その他の法人)	2.5%
金融商品取引業者	1.9%

【大株主】

株主名	持株数(千株)	持株比率 ^{*2} (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	162,328	16.92
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	63,033	6.57
日本生命保険相互会社	51,413	5.36
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDONSECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	31,199	3.25
第一生命保険株式会社 ^{*3}	26,199	2.73
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	25,177	2.62
明治安田生命保険相互会社	22,725	2.37
JP MORGAN CHASE BANK 385642	19,033	1.98
JP MORGAN CHASE BANK 385781	13,897	1.45
GOVERNMENT OF NORWAY	12,721	1.33

*2 当社は、自己株式18,498千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

*3 第一生命保険株式会社の持株数には、同社が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式1,600千株は含まれておりません。なお、当該株式に係る議決権は、同社が留保しております。

【年度ごとの株価推移^{*4}】

FY	最高値(円)	最安値(円)	年度末(円)	ボラティリティ ^{*5}
2015	1,580.50	1,202.00	1,269.75	33.6%
2016	1,351.25	1,010.00	1,098.25	28.2%
2017	1,271.75	926.50	962.50	19.2%
2018	1,094.00	812.25	884.50	25.4%
2019	1,044.00	813.00	1,005.25	26.1%
2020	1,263.75	847.00	1,132.75	28.9%
2021	1,828.00	1,067.50	1,737.50	24.9%
2022	2,317.00	1,439.50	2,303.00	25.9%
2023	3,139.50	2,284.00	2,830.00	27.0%
2024	3,295.00	2,443.00	2,958.50	26.3%
2025	4,968.00	2,636.50	4,397.00	36.9%

*4 2025年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。表示されている会計期間の期首に当該株式分割が行われたと仮定して過年度の数字を算定しています。*5 数値は標準偏差。

[SRIインデックスへの組み入れ]

＞SRIインデックスへの組み入れ <https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/sustainability/esg/evaluation.html>

- Dow Jones Best-in Class World Index
2014年より連続選定
- FTSE4Good Global Index
2004年より連続選定
- MSCI World SRI Indexes
2011年より連続選定
- MSCI ESG Leaders Indexes
2010年より連続選定

[主な評価・表彰]

＞外部からの評価・表彰 <https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/sustainability/esg/sri/2025.html>

- CDP2025年度「気候変動Aリスト(最高評価)」
- GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「マテリアリティの観点から『優れたサステナビリティ開示』」
- 2025 EcoVadis(ゴールド)
- 2025年度証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定食品部門「ディスクロージャー優良企業」
- 健康経営優良法人2026(大規模法人部門～ホワイト500～)
- 令和7年度「なでしこ銘柄」
- PRIDE指標2025(ゴールド)
- サステナビリティ・トランスフォーメーション銘柄(SX銘柄) 2026
- 日経統合報告書アワード「グランプリ」

[関連資料]

味の素グループASVレポート(統合報告書)(発行：2026年8月末)
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/ir/>

ASVレポート編集部

味の素(株)経営企画部、IR室、
(株)エッジ・インターナショナル、大日本印刷(株)

Fact Book(発行：2026年7月末)
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/factbook.html>

有価証券報告書(発行：2026年6月)
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/securities.html>

味の素グループ サステナビリティレポート(発行：2026年8月末)
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/databook.html>

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針(更新：2026年4月)
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/strategy/corp_gov/main/0/teaserItems1/03/linkList/03/link/principle_J.pdf

IR Data Book(発行：2026年6月末)
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/guide.html>

コーポレート・ガバナンス報告書(発行：2026年6月)
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/strategy/corp_gov/main/0/teaserItems1/03/linkList/07/link/Governance2026_J.pdf

味の素グループの主な開示媒体

	開示媒体	位置づけ
任意開示	ASVレポート(統合報告書)	中長期の価値創造視点で財務・非財務の特に重要な情報をストーリー化 マネジメントの考えや変革の 歴史・競争優位性・経営戦略を掲載
	サステナビリティレポート	サステナビリティの取り組みの 考え方・実績をより詳しく網羅的に伝える
	IR Data Book	業績等の推移をわかりやすく ご理解いただくために、 過去10年間のデータをまとめた資料
	Fact Book	各事業の定量データ・基礎情報を網羅的・ 即時参照できる補完資料
法定開示	有価証券報告書	事業内容や財務状況、サステナビリティ情 報を法令に基づき開示

ASVレポート2026について

【対象組織】

原則として、味の素(株)および連結子会社・持分法適用会社(2026年3月31日現在)を「味の素グループ」と表記しています。グループ全体の情報を十分に把握できていない事象は、報告の都度、対象組織を明示しています。

【対象期間】

2025年度(2025年4月～2026年3月)。ただし、過去の経緯やデータ、最近の事例を示すことが適当である場合は、この期間以外のもを報告しています。

【将来見通しに関する注意事項】

本レポートに記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本レポートの発行日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。